

豊栄小学校だより

住所 匝瑳市飯倉 1847
電話 0479-72-0531

やる気・勇気・元気

めざす子ども像

- ・進んで学習に取り組む子ども(やる気)
- ・思いやりのある子ども(勇気)
- ・進んで身体を鍛える子ども(元気)



HP QR コード

いじめをなくしたい!

6月16日に「いじめゼロ集会」を実施しました。いじめ防止のためにできることを各学年が発表しました。「なくそうよ みんなの心の深い傷」という合い言葉をつくった5年生に始まり、「チクチク言葉をつかわないで、ふわふわ言葉をつかう」などの提案が続きました。

校長からは、実際にその通りに行動するのはとても難しいことだけれども、自分たちで話し合ったことなので、自分たちでしっかり行動できるようにしていこうと話しました。

「豊栄小学校をいじめのない学校にしたい。」この想いは、職員・児童・保護者共通のものでしょう。学校としては、いじめアンケートや教育相談の取組を継続するとともに、「これはいじめかもしれない」という視点で日常の観察に注意し、いじめが起きないように、起きた場合には早期解決できるようにチームでの対応を推進しています。しかし、児童が誰かをからかう、いやがらせするといった行為は、職員を目を盗んで、隠れた所で起こるのが常です。見えるところでも、ふざけの範囲内なのかどうか判断がつきにくいところもあります。

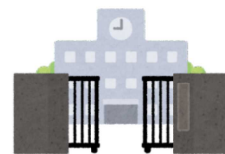
児童側としては、自分が被害に遭っていると口に出したくないという心理が働きがちです。保護者としては、子どもに「誰にも言わないで」と口止めされる、「こんなこと先生に言っていないのかしら」と戸惑うといったケースもあるでしょう。

学校として気付いていないケースをなくすためにも、保護者の皆様におかれましては、お子様と話していて「それは対等な関係ではないな」と感じた場合、子どもが傷つく言動があったと疑われる場合は、躊躇(ちゅうちょ)せず、**ぜひ学校にお知らせください**。担任に話していくことは、教頭や養護教諭が話を聞きます。学校側の見方も説明いたします。すぐに指導するのか、しばらく様子を見るのか、さらに情報を集めるのか、相談しながら対応を進めます。必要があれば、どこから得た情報かわからないようにも工夫します。

昨年度の学校活動アンケートでは、「いじめへの取組」に関して児童・保護者の評価が低い結果でした。本年度の改善を目指しています。

西門を開閉する際は

6月上旬、西門(保健室側の門)の動きが悪いことに気付きました。業者さんに見ていただき、少し良くなるのですが、3つに分かれている**一番西側の部分が以前よりも重くなっています**。ご承知おきください。



自己肯定感・自己存在感を高める

学校でけがが起きてしまい、医師の診察を受けました。お母さんが仕事から駆けつけて来てくれました。医師から「大丈夫です」と言われ、安心したお母さん。「よかったー!」とお子さんの胸のあたりを触りながら、心から喜んでいる様子でした。お子さんは、「自分が大事な存在なんだ」と強く感じたに違いありません。学校でけがをさせてしまって申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、お母さんがお子さんをととても大切に思っていることがにじみ出てくる場面に出会えて、あたたかい気持ちになりました。

「自己存在感」「自己肯定感」の高い子どもは、様々なことに意欲的に取り組めると言われ、これらの言葉は教育におけるキーワードの一つになっています。自己肯定感を高めるには、成功体験を重ねることが大切と言われていますが、まわりの人から自分が大切にされていると感じる体験も、大きく自己肯定感が高まることにつながります。

けがをしたときだけでなく、失敗したときなどにも、どうやって声をかけるかで、自己肯定感は大きく変わっていきます。これは子どもに対してだけでなく、大人にも言えることです。自分自身はまわりの方の自己肯定感を高める声かけができていますか、再点検しています。